『ベルトつくる』　４歳児　　９月　伏見こども園

子どもの姿

１学期から楽しんでいるステージごっこは、２学期になって「先生、カチューシャつくったよ」と自分でイメージしたものをつくったり、「かわいいね」と友達に認めてもらったり、「先生、三つ編みつくって」と保育者に伝えたりして「可愛くしたい」「かっこよくしたい」と、いろいろなアイテムをつくることで盛り上がっています。

そんな中、曲に合わせて体を動かすことが好きなＡくんは毎日ステージに立っています。衣装やアイテムは何も身につけていませんが、曲が流れると楽しんでいるようです。ある日、Ａくんはいつものようにステージに立っていますがよく見ると透明カプセルを持っています。「Ａくん、これどうしたいの？」と保育者が声をかけると「ベルトつくる」と小さな声で呟いたので、保育者は「ベルトをつくりたいんやね。よし！材料探しに行こう」とＡくんを誘いました。すると、スズランテープを「これ」と指さしたのです。保育者は、少し前に一緒に踊っていた友達が箱と三つ編みで変身ベルトをつくっていたことを思い出しました。保育者は、Ａくんの好きな色を聞いて三つ編みをつくり、Ａくんが透明カップをテープで貼り付けました。Ａくんの腰に変身ベルトを結ぶと、嬉しそうにステージに立ち、曲に合わせて体を動かしていました。

子どもの育ちや学び

少し前に友達がつくっていた変身ベルトを見て「自分もつくりたい」と思ったが、保育者に伝えられなかったり、材料を見つけられなかったりしたのかもしれない。

素材の中から使ってみたいと感じて手にとったカプセルを大切にしていた。「変身ベルトにしたい」と保育者に思いを伝えることで、つくりたかったものが形になって嬉しい気持ちを味わえた。

つくった変身ベルトを身につけてステージに立つ喜びを味わうことができた。「みんなと踊ると楽しい」という表情が見られた。

保育者の思い

ステージ遊びが進んでいく中で、子ども達は、遊びの中で友達がしていることを見て、自分もつくりたいと表現することができる子が増えてきました。自分から保育者に伝えられる子もいれば、一人で見よう見まねでつくっている子、材料は見つけたけどどのようにしたら良いか迷っている子。つくることが好きな子どもはどんどん必要なものをつくっていきますが、つくりたいと思うけど、形にしていくことが苦手な子どももいます。保育者は、一人一人がつくりたいものを自由につくって楽しんでほしいという思いと共に、つくりたいという心の動きを対話の中で知りたいと思っていました。

一人一人の「やってみたい」という表現の違いや行動の変化を受け止め、対話の中で方法を見つけて実現することが、子どもの自信や喜び、楽しいという感覚、もっとやってみたいという思いに繋がるのではないかと思いました。

家庭だったら・・

大人がイメージすることと、子どもがイメージして形にしていくものは、しばしば違うことがあります。すぐに答えが出なかったり、きちんとした形にならなかったりすると大人は焦ってしまうこともありますもんね。でも、子どもは言葉には出さないけど思っていたり感じていたりしているものです。大人にとって「待つ」ことは忍耐のいることかもしれませんが、子どもを信じて待ってみませんか。子どもが出した答えを「いいね」と認めるととびきりの笑顔が返ってきますよ。